

竜丘小学校放課後子ども教室 (飯田市立竜丘小学校)

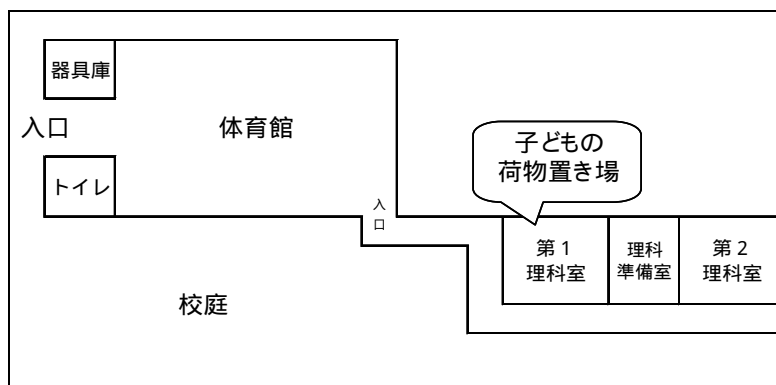
1 概要

地域の大人や学年の違う子どもと一緒に集まり、スポーツや文化的な体験活動を行い、子どもたちの自主性・社会性・創造性を育てていくことを目指し運営している。

竜丘小学校放課後子ども教室	
実施主体	飯田市
対象児童	小学校1～6年生
活動場所	竜丘小学校体育館等
実施日等	平日
	毎週水曜日 午後3時30分～5時00分
帰宅方法	保護者の迎え
負担金	年間 1,000円
登録者数等	54名(1日平均 40～50名参加)

スタッフの状況 (人)	
コーディネーター	1
安全管理員	27
学習アドバイザー	0
一般ボランティア	54
計	82

< 取組状況図 >



施設の全景

2 活動状況等

< 活動状況 >

毎週水曜日にスポーツと体験活動の2つのメニューを計画し、小学校理科室・体育館・公民館を利用して実施している。

1日の活動の流れの様子

- ・ 15:00 スタッフ集合
- ・ 15:30 子どもが集合し、始めの全体会を行う
- ・ 15:40～16:55 子どもの希望するメニューに分かれ活動を行う
- ・ 16:55～17:00 終わりの全体会
- ・ 17:00 解散(原則、保護者が迎えに来る)

< 実施小学校区の放課後児童クラブとの関わり >

小学校と児童センターが多少離れているため、放課後子ども教室に参加した児童を終了後、安全管理員が児童センターまで付き添って引き渡しをしている。



始めの全体会の様子

3 工夫及び成果

登録児童の保護者にボランティアとして協力できる範囲でお願いしている。

4 安全管理員等ボランティアの人材確保の状況

昨年11月に発足できるまで、ボランティア組織について数ヶ月の時間をかけて研究した。組合回覧や地域のネットワークにより、安全管理員を確保している。

5 課題及び反省点

ボランティアスタッフの確保が課題である。

6 今後の展望

昨年11月に開設し、手探り状態での運営であったが、昨年の経験を元に魅力ある教室作りを行っていききたい。

7 参加者の声

<参加児童>

竹とんぼを作ったり、色々な物を作るのが楽しい。
学年の違う友達と遊ぶことができている。
知らなかったことを沢山覚えることができた。
毎週楽しみにしています。

<保護者>

色々な物を作ったりすることが楽しいようで、毎週水曜日を楽しみにしている。
普段体験することができないことができるので、貴重な時間です。
家では教えられないことも教えていただきありがとうございます。

<スタッフ>

教室に関わるようになって、子どもたちから力をもらっている。
メニューがマンネリ化することがないよう、子どもたちが希望するメニューをできるようにしていきたい。
子どもたちのやる気を尊重していきたい。



いちご大福を作りました。



スポーツ活動の様子

須坂市放課後子どもプラン

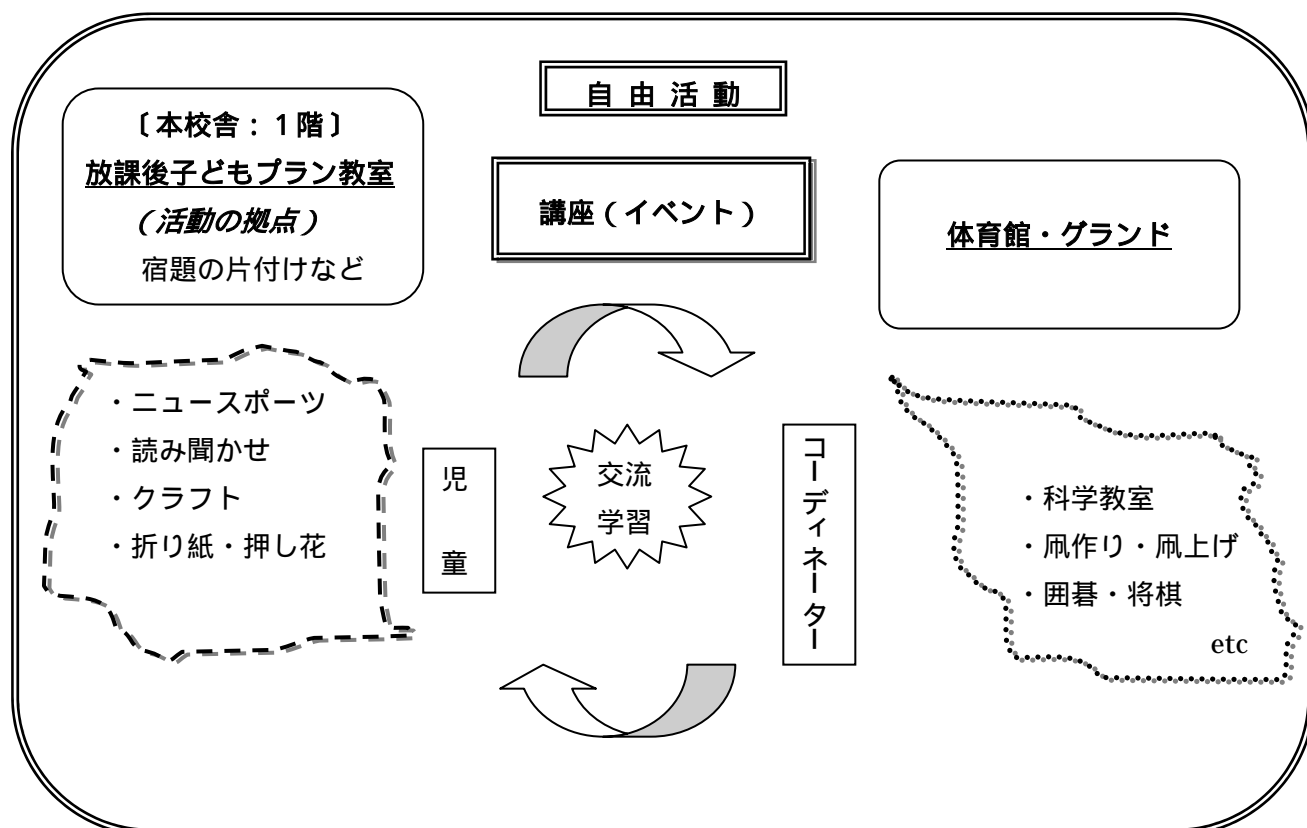
1 概要

平成 19 年度、須坂市では、放課後子ども児童の健全な育成を図るため、須坂小学校の余裕教室を利用し、放課後子どもプランを実施する。

放課後子どもプラン（須坂市）	
実施主体	須坂市教育委員会
対象児童	須坂小学校通学児童
活動場所	須坂小学校
実施日等	8月29日から11月9日までの毎週水曜日、金曜日
帰宅方法	原則保護者のお迎え
負担金	0円
登録者数等	24人

スタッフの状況	
放課後子どもプラン (人)	
コーディネーター	10
安全管理員	4
学習アドバイザー	8

〔取組状況図〕



2 活動状況等

プランは、8月末から11月上旬の毎週水曜日と金曜日に開催する。内容は、須坂小学校学校余裕教室を利用し、宿題を済ませた後、事務局が開催する各種講座(イベント)に参加したり、教室、体育館、グラウンドで自由に自分がやりたい遊びをして、学校で放課後の時間を有意義に活動する。

月日	内 容	参加人数	備 考
8/29	開所式、ニュースポーツ(スマイルボーリング)の実施	16人	
8/31	宿題を済ませた後、自由活動、囲碁教室開催	15人	
9/5	宿題を済ませた後、自由活動 体育館でガラッキを使い遊ぶ。	15人	
9/7	宿題を済ませた後、自由活動 体育館でドッチボールで遊ぶ。	15人	
9/12	宿題を済ませた後、自由活動、将棋教室開催	14人	
9/14	宿題を済ませた後、自由活動、読み聞かせの開催	15人	
9/19	宿題を済ませた後、クラフト教室開催	15人	
9/21	宿題を済ませた後、自由活動、体育館でペタンクで遊ぶ。	12人	
9/26	宿題を済ませた後、自由活動 中庭でだるまさんが転んだで遊ぶ。	12人	
9/28	宿題を済ませた後、折り紙教室開催	15人	
10/3	宿題を済ませた後、押し花講座開催	14人	
10/5	宿題を済ませた後、自由活動、フリスビーを作って遊ぶ。	14人	
10/10	宿題を済ませた後、ニュースポーツ(ユニホック)の実施	14人	
10/17	科学教室、各種実験を行う。	21人	
10/19	宿題を済ませた後、自由活動	21人	
10/24	宿題を済ませた後、自由活動、読み聞かせの開催	19人	
10/26	宿題を済ませた後、自由活動 紙飛行機を作り、体育館で遊ぶ。	19人	
10/31	宿題を済ませた後、自由活動、凧作り教室開催	21人	
11/7	宿題を済ませた後、自由活動、凧上げをする。	20人	
11/9	宿題を済ませた後、自由活動、閉所式	21人	

2 工夫及び成果

プランでは、参加する児童が様々な体験を通して情緒や発想が豊かになることや、参加すれば必ず何か経験できるという期待感を狙って実施日毎に各種講座(イベント)を開催した。これにより、これまで経験したことのない遊びや体験をすることによって、多方面における興味を喚起できたり、様々な発想を引き出すことができた。また、日頃同じ教室で学習や遊ぶことのない児童が、一緒にいろいろな遊びや体験を経験することによって、学年間の交流が図れたり、それぞれの講座には外部方に指導をお願いしたため、普段の生活では関わることがない方と交流や学習ができ世代間交流を図れた。

3 安全管理員等ボランティアの人材確保の状況

- ・ 講座等の講師については、運営委員の所属団体等へ依頼しお願いする。安全管理員については、運営委員をお願いしたり、不足する分については職員が直接対応した。

4 課題及び反省点

- ・ 児童が活動できる範囲は、どうしてもスタッフの目の届く範囲に限定してしまいがちであるが、それをどこまで範囲を広げられるか。
- ・ 講座を開催した時に、内容によっては時間が足りないことがあった。
- ・ プランへの参加するためには登録することが必要であり、また、募集も開所前と途中の2回しか行わなかった。プランの活動を見て、参加を希望する児童が随時加入できるような対応をしたほうがよかった。
- ・ いろいろな講座を開催する場合に、コーディネーター、アドバイザーの確保をどのようにするか。
- ・ 参加した学年の幅が広いため終業の時間に差があったため、講座の参加の開始がまちまちなるなど、落ち着いて取り組むことが難しいことがあったため、どのようにすれば足並みを揃えて活動することができるか。
- ・ 11月上旬まで開催したが、日が暮れ早くなってからころから、保護者が迎えに来ない児童を一人で帰すのは、安全面から考えて不安があり、開催時期については再検討が必要である。
- ・ アドバイザーの職務がはっきりしなかったため、どこまで対応してよいかわからなかった。途中で検討会等を開催して話し合う必要があった。
- ・ 放課後の事業であるが集団活動であるため、活動の中に一定のルールづくりが必要であった。
- ・ プランの内容を保護者へ周知し協力を得ることが必要である。
- ・ 欠席の連絡について、学校には来ているが、プランの担当者までは来ないことがあった。

5 今後の展望

- ・ 参加を希望する児童については、随時受け入れを可能にする。
- ・ 活動は、宿題を終えたあと講座に参加して活動するのが中心であったが、講座を開催する日と講座を開催しないで児童が自由に活動する児童主導型の日に分ける。
- ・ 開催日数を増やす。
- ・ 開催時期については、児童の安全面から考えて、児童がまだ明るい時間に帰れる時期にする。

6 参加者の声

<参加児童>

アンケート実施 21 人回答

Q1 あなたは放課後子どもプランに参加してどうでしたか。

- ・ おもしろかった 14 人
- ・ 少しおもしろかった 0 人
- ・ ふつう 5 人
- ・ あまりおもしろくなかった 1 人
- ・ おもしろくなかった 1 人

Q2 おもしろかったという人は何がおもしろかったですか。

オセロ、折り紙、かくれんぼ、凧作りと凧揚げ、ドッチボール、サッカー、ハンドベース、将棋

Q3 ほかにやりたいことはありましたか。

虫とり、なわとび、ドッチボール、かくれんぼ、あやとり、フラフープ、ゲーム、お絵かき、オセロ、チェス、パチンコづくり

Q3 来年も子どもプランに参加したいですか。

- 参加したい 16 人
- わからない 1 人
- したくない 3 人
- しない 1 人

<スタッフ>

- ・ 放課後子どもプランの参加児童が、これをきっかけに他のイベントにも参加するようになるとうい。
- ・ 子どもたちが、何も無いところからいろいろなものを作っていくエネルギーは素晴らしいと感じた。
- ・ もっと広い教室があればありがたい。
- ・ 他にもプランに参加できる児童がいたと思われる。
- ・ 開催日毎に各種講座を開催したが、児童が主体的でスタッフは見守る型のものも必要である。
- ・ 遊具を用意したが、時間が短かったのかじっくりと遊ぶ時間が少なかったように感じられる。
- ・ より多くのコーディネーター、アドバイザーに参加、協力をお願いします。
- ・ 学年の幅が広いため下校時刻に差があり、講座を開催したが足並みが揃わないことがあった。
- ・ 11 月上旬まで開催したが、日が暮れ早くなってから迎えに来ない児童を一人で帰すのは、安全面から考えて問題がある。

安曇野市放課後子ども教室「わいわいランド」

1 概要

安曇野市では10小学校のうち、平成19年度は豊科地域の3小学校と、明科地域の2小学校の合計5小学校区で、放課後子ども教室「わいわいランド」を実施しました。

放課後子ども教室「わいわいランド」			
実施主体	安曇野市教育委員会		
対象児童	小学校1～6年生		
活動場所	小学校体育館など		
実施日	毎週水曜日 豊科地域 3時から5時まで 明科地域 (夏)2時から5時まで (冬)2時から4時まで		
帰宅方法	豊科地域 保護者のお迎え 明科地域 通常と同じ、見送りボランティアなど		
負担金	年間一人1,050円の保険料のみ負担		
登録者数	登録者(人)	平均参加人数(人)	
	豊科南小	123	80
	豊科北小	107	70
	豊科東小	50	42
	明南小	99	71
	明北小	43	29

スタッフの状況(全市)	
コーディネーター	2人
安全管理員	59人
学生	2人
遊びのインストラクター	2人
合計	65人

2 活動状況

子どもたちは授業終了後に、昇降口から下校します。放課後子ども教室「わいわいランド」に登録の子どもは、それぞれの学校の主な活動場所である体育館に、ランドセルと上履きを持って移動します。

受付で自分の名前を確認後、自分の名札をとり、宿題を済ませます。宿題を終わった子どもからそれぞれ、自分の好きな遊びをして過ごします。

コーディネーターが考えた体験活動を実施しました。饅頭づくりや、しめなわ作りを地域の講師をお願いして実施したところもありました。



(お絵かき遊びの様子：明南小区)

3 工夫及び成果

豊科地域3校では、放課後子ども教室終了後、保護者のお迎えを制を採用しています。明科地域では夏場は5時に終了、冬場は4時に終了し、なるべくいつもの下校方法と同じ方法で帰宅しています。また、明科地域では、学校から遠い子については、一部ボランティアの方による見送りをいただいています。



(自由に遊ぶ子どもたち：豊科東小会場)

4 安全管理員等ボランティアの人材確保の状況

放課後子ども教室の時間帯は、お勤めされている方など、時間に融通のきく方が少ない時間帯で、人材の確保に苦慮しているのが現状です。市の広報等でも宣伝しましたが、一番効果的だったのは、安全管理員さんどうしが知り合いの方に声をかけてくださって、ネットワークを広めていただくことだと思います。



(宿題をする子どもたち：明北小会場)

5 課題及び反省点

課題は多くあるのですが、その一つに子どもたちの帰宅の方法と、子ども教室の終了時刻がいつぐらいがよいのかというのがあります。また、安曇野市では放課後子ども教室を各小学校区において、学校の体育館等をお借りして実施していますが、もう一方の放課後児童クラブは、ほとんどが、児童館において実施されています。この両方の事業をすぐに一体的に実施ということは大変困難なことです。これからどのように連携して実施していくかということが、課題です。



(自由に遊ぶ子どもたち：豊科南小会場)

6 今後の展望

市内には小学校が10校ありますが、今後もう5校についても放課後子ども教室を開設したいと考えています。



(紙飛行機で遊ぶ：豊科北小会場)

立科町放課後子ども教室

立科町立科小学校

1 概要

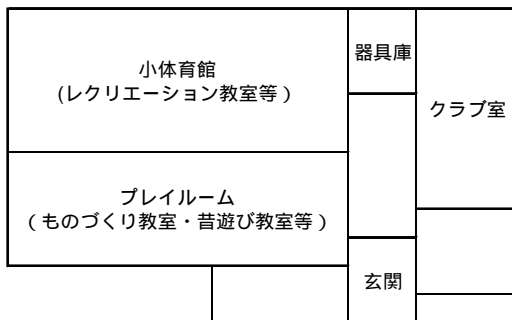
平成19年度立科児童館では、放課後等における子どもたちの安全で健やかな居場所づくりを推進するため、小学生を中心とした放課後子ども教室を実施し、ものづくり体験教室・昔あそび教室・スポーツ教室・レクリエーション教室等の開催した。また小学1～3年生を対象とした児童クラブも並行し同様の活動の他、親子遠足・スキー教室等の実施をした。

	立科町放課後子ども教室	立科町放課後児童クラブ
実施主体	立科町教育委員会	立科町教育委員会
対象児童	小学校1～6年生	小学校1～3年生
活動場所	立科町児童館及び町体育館	立科町児童館
実施 日 等	平日	毎週2～4回 計170回実施 放課後～午後5時
	その他	土曜日午前8時30分～ 午後5時
帰宅方法	個人及び保護者の迎え	保護者の迎えが必要
負担金	なし	なし
登録者数等	467名、各教室平均15名参加	30名

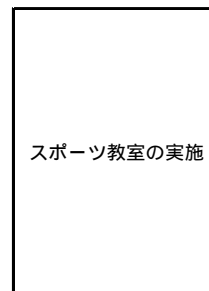
スタッフの状況	
放課後子ども教室 (人)	
コーディネーター	4
安全管理員	37
学習アドバイザー 一般ボランティア	
計	41

< 取組状況図 >

【児童館】



【町体育館】



立科町児童館 (こども未来館)

2 活動状況等

< 活動状況 >

平成19年度放課後子ども教室は、すべて地域の人々が指導員 (安全管理委員) として

文化伝承教室・・・60回
 スポーツ教室・・・35回
 ものづくり体験教室・・・34回
 レクリエーション教室・・・22回
 美術創作教室・・・19回 の計170回の教室を開催した。

文化伝承においては、囲碁・将棋教室を開催、またこま回しやけん玉、百人一首等も開催。スポーツ教室はドッジボールを中心にマレットゴルフ、縄跳び、サッカーなど、他の教室では、折り紙、ビーズ教室や竹馬づくり、また近くの特別養護老人ホームへ出向きお年寄りとの交流も行った。

< 活動の特長 >

本活動は、すべて町内の人々の協力により行っており、多彩なメニューにより子どもたちに好評であり、老人ホームでのお年寄りとの交流など、保護者の方からも喜ばれている。



体育館でのスポーツ教室

3 工夫及び成果

教室をとおして地域の人々との交流を深めるとともに保護者、地域が放課後子ども教室及び児童館の活動に対し関心と理解をもつ。

4 安全管理員等ボランティアの人材確保の状況

社会福祉協議会のボランティアコーディネーターによる紹介のほか紹介者の知人等により確保している。



5 課題及び反省点

教室の開催が平日の午後であるため教室の内容により人材の確保、また参加児童数の偏りがある。

6 今後の展望

児童の参加しやすい教室の開催、また、より児童館の活動に対する理解の浸透をより図る。

7 参加者の声

<参加児童>

楽しい教室がたくさんあって児童館に来るのが楽しみだ。

<保護者>

老人ホームへの訪問（交流）やいろいろな教室の開催がありよい。いろいろな体験や遊びをさせていただきありがたい。

<スタッフ>

教室に参加してくる子どもたちが元気でよい。



高森町ふれあいスクール 高森南（北）小学校ふれあいクラブ (高森町 高森南（北）小学校)

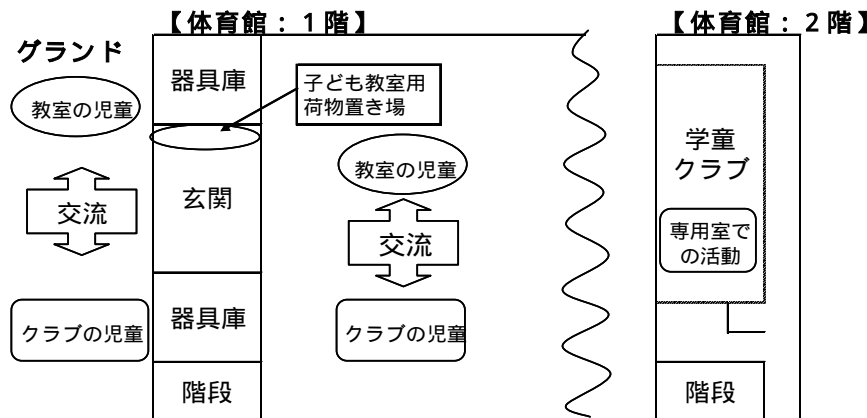
1 概要

高森町の南北小学校の施設を利用し、異年齢間の交流を通じ、子どもの創造性・自主性・社会性・創造性を養い、児童の健全育成を図ります。あわせて、子どもの安全・安心な居場所づくりを行ないます。

		高森南小学校ふれあいクラブ（放課後子ども教室）
実施主体	高森町教育委員会（高森町ふれあいスクール運営委員会）	
対象児童	小学校1～6年生	
活動場所	高森南小学校体育館、グラウンド、遊びの森等	
実施日等	平日	原則学校の登校日（除集団下校・学校行事）の授業終了時刻から学校の完全下校時間（概ね午後4時30分）
	その他	長期休業（夏休み・春休み） 午前8時30分～午後3時30分
帰宅方法	一般児童と同じ	
負担金	なし	
登録者数等	78人（うち長期休業のみ31人 1日平均約40人参加）	

スタッフの状況	
ふれあいクラブ（人）	
コーディネーター	1
安全管理員	1
学習アドバイザー	1
一般ボランティア	5
計	8
学童クラブ（人）	
指導員	3
一般ボランティア	5
計	8

< 取組状況図 >



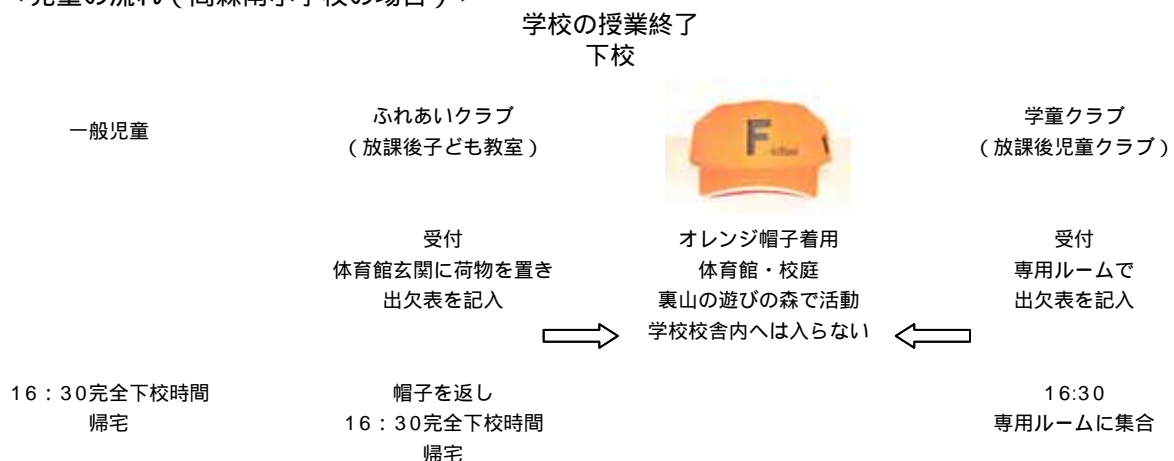
子ども教室荷物置き場



学童クラブ（体育館2階）

2 活動状況等

< 児童の流れ（高森南小学校の場合） >



< 活動状況 >

学習：宿題、読書
昔遊び：百人一首、綾取り
スポーツ：一輪車、外遊び
自然体験：植物観察、水生生物調査、プラネタリウム
工作：ダンボール工作、折紙、手芸など年間を通じて一つの目標を達成する活動等

出席確認
おやつ時間
専用ルーム・体育館・校庭
裏山の遊びの森で活動
18:00
保護者迎え
帰宅

<活動の特長>

高森町では、平成14年度から小学生の放課後対策として学校施設を利用して安全な「遊び場」を提供し、学年の異なる子どもたちが社会性、創造性を養う「ふれあいスクール」を実施しています。

「ふれあいスクール」は、1～6年生までを対象にした「ふれあいクラブ」（放課後子ども教室）と、1～3年生までの低学年用の「学童クラブ」（放課後児童クラブ）で構成され、高森町教育委員会で運営委員会を設け一体的に運営しています。

「ふれあいクラブ」は月曜日から金曜日まで原則学校の登校日と長期休業（夏・春）、「学童クラブ」は原則として月曜日から土曜日と長期休業（夏・春）に開設しています。



南小開校式の様子

<実施小学校区の放課後児童クラブ（学童クラブ）との関わり>

ふれあいクラブ（放課後子ども教室）、学童クラブ（放課後児童健全育成事業）は、教育委員会学校教育係が所管し一体的に運営しています。

学校との連携は、各学校内に各2名担当教諭をおき、定期的にそれぞれのスタッフと連絡会を実施し児童指導、安全対策等連携しています。



北小開校式（音楽発表）

3 工夫及び成果

通年を通しては、マフラー編みやダンボール工作など1つの目標を達成する活動を、長期休業には、国土交通省天竜川河川調査へ参加、また植物観察教室や蘭植物園での体験教室など体験活動を行なっています。

長期休業は、学校のプレイルームをふれあいクラブの専用室とし、学童クラブと共に活動します。

4 安全管理員等ボランティアの人材確保の状況

登録ボランティア（10名）

学童クラブ指導員の協力

学校教職員の協力

社会福祉協議会ボランティアセンターからの応援

教育相談室・子育て支援センターからの応援

長期休業は保護者会が保護者当番として参加、給食センターからの応援



自然観察（水生生物調査）

5 課題及び反省点

年々登録児童数が増加しており、また、学校の児童数も増えていることから、学校内での場所の確保が難しくなっています。

スタッフ（コーディネーター・学習アドバイザー・安全管理員・児童クラブ指導員）やボランティアの確保が難しい。

参加者の増加に伴い財政負担が増加している。

6 今後の展望

安心で安全な児童の居場所を確保するとともに、勉強やスポーツ文化活動の充実のほか地域住民の多くの参加を得て、地域交流活動をすすめていきます。

7 参加者の声

<参加児童>

お兄ちゃんと遊べてうれしい。
いろんな遊びを覚える。

<保護者>

学校内なので、安心して預けることができる。
宿題をみてくれてありがたい。
子どもの縦のつながりができる。

<スタッフ>

子どもから元気をもらえる。
安心・安全について気を使う。



宿題の様子（北小）

日義地区放課後子ども教室「くすくす」

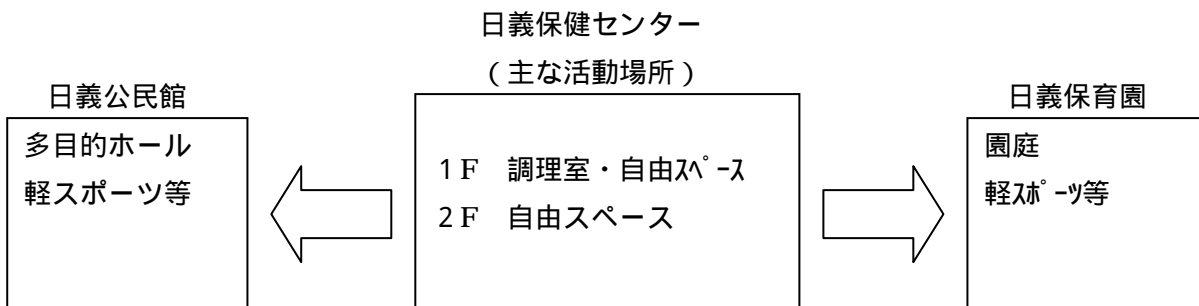
1 概要

放課後等に子供たちの安全で健やかな居場所作りを推進するため日義小学校全生徒を対象に放課後子ども教室を実施する。

		日義地区放課後子供教室「くすくす」
実施主体	木曾町教育委員会	
対象児童	日義小学校 1年生～6年生	
活動場所	日義保健センター	
実施日等	平日	毎週月曜日～金曜日 放課後～18:30
	その他	長期休業・学校計画休・振替休日等(8:00～18:30)
帰宅方法	保護者の責任において帰宅	
負担金	原則なし(持ち帰る工作キット・飲食等に係る経費等は徴収)	
登録者数等	50人(平均14名)	

スタッフの状況	
「くすくす」 (人)	
コーディネーター	1
安全管理員	5
学習アドバイザー	3
一般ボランティア	5
合計	14

< 取組状況図 >



2 活動状況

活動時間は毎週月曜日から金曜日で下校時間から18:30までを実施

その他長期休業・振替休業等の平日学校休業日は8:00~18:30に開催

活動の内容

- ・宿題（宿題は子供たちの意思で自主的に行う）
- ・自由遊び（工作・折り紙・絵を描く・体を動かしたい子供達は隣にある保育園庭を借りてのボール遊びや雨天時は公民館ホールでの遊び等）
- ・毎週水曜日は手作りおやつの日として子供たちがおやつ作りを楽しみます。
- ・畑で野菜作り・花作り

昨年は ポップコーン用とうもろこし、枝豆、スイカ、トマト、イチゴ等を作って食べました。

- ・不定期で工作教室を実施

H19では、もしもしフォンで自己紹介

こいのぼり作り

粘土で消しゴム作り

スライムで遊ぼう を実施

工作教室（ケシゴムで粘土作り）



- ・社会福祉協議会と共催でわくわく科学実験教室を開催



科学実験教室での
模様

（オーブレックというふし
ぎな粉を水に溶かすと液体の
ように流れるのに表面はかた
い。あらふしぎ）

- ・お楽しみイベントの開催

ハロウィンパーティ

クリスマス会

3月には卒業する6年生のお別れ会を開催



クリスマス会
での1ショット

- ・長期休暇や振替休日等は開催時間も長いためイベント等を企画

公民館子供事業共催「野上川でさなか釣り」を実施 ボランティア・こども会議（中学生）の協力で夏休み中に魚釣りと飯盒炊爨を体験

山吹山へハイキング 近くの山へお弁当を持って登りました。

草木染に挑戦！ コーディネーターの指導で摘み取った草花でハンカチを染めました。

食生活改善委員会の方と料理作り 郷土食と一緒に作って食べました。

プラネタリウムへ行こう！ 等を実施しました

3 工夫及び成果

子供にとって居心地のよい場所づくりに向けて、コーディネーターと指導員で定期的に会議を開催しイベントの計画や子供達の様子などを話し合っています。

工作教室など子供の興味をひくイベントで次第に口コミなどで参加する生徒の数も増えてきました。

そこに行けば何か面白いことがあり、やりたいこと作りたいものを作るために相談に乗ってくれる大人がいる。友達と宿題をしたり、学校のつづきができたりする場所。こどもの居場所。そんな場所作りを目指して活動をしています。

4 安全管理員等ボランティアの人材確保の状況

現在のスタッフは地域子ども教室実施主体の指導者を中心にして呼びかけました。その他社会福祉協議会・役場保健師・指導員等へ指導者の候補者を照会し、コーディネーター及び教育委員会から事業の趣旨・内容説明をして指導員をお願いしています。

ボランティアについては保護者等に呼びかけ、お手伝いしていただける方に参加していただいています。特に長期休業等では指導員の確保に苦慮しており、今後さらにボランティアの人材確保が必要となってきています。

5 課題及び反省点

日義小学校区域には児童館や児童クラブが存在しないため、放課後の子どもの居場所作りの事業はこの放課後子ども教室のみとなります。したがって誰でも登録さえすれば自由にいれる居場所作りであるが、夕方5時以降の利用児童は学童クラブ的な要素が強くなり、保護者の意識も違うように見受けられる。今後町内にある他の小学校区域との調整等で特色を出していけるかが課題となる。

6 今後の展望

これまでの運営に対しての保護者の意見や指導者の意見等を取り入れて活動を進めていく。

子どもの目線に立って「そこに行けば何か面白いことがあり、やりたいこと作りたいものを作るために相談に乗ってくれる大人がいる。友達と宿題をしたり、学校のつづきができたりする場所。こどもの居場所」の基本理念に基づいて活動していきたいと考えます。

7 参加者の声

参加児童

楽しい事

- ・みんなと野球ができて楽しい。・お菓子づくりができること。・公民館や保育園で遊べること。
- ・こいのぼりを作ったり粘土で遊べること。・勉強したあとにあそぶこと。

嫌なこと

- ・けんかしたこと。・まだ遊びたいのに家の人を迎えに来た。・おやつ作りがいやだった。

保護者

くすくすのいいところ

- ・他の学年のこども達との交流がありたくさんの友達ができてよい。
- ・子どもに様々な遊びを提供してくれているところ。指導員も一緒になって遊んでくれる。
- ・工作教室等変化のついたイベントがあつてよい。
- ・安全なところで子どもたちがたっぷり遊べる。手作りのおやつを作ったりできるところ。宿題の面倒も見てもらえるところ。
- ・子どもも週に1度あるお菓子作り等をとても楽しみにしています。子どもたちが楽しく過ごせるよう工夫してくださっているのでとてもありがたく思います

改善してほしいところ

- ・言うことを聞かなかつたりやっではいけないことをしてしまったら厳しくしかつてほしい。
- ・迎えに行つたときに外に遊びに出かけていると公民館にいるのか保育園にいるのかわからないので居場所をわかるようにしてほしい。

スタッフ

- ・くすくすに関わつてから子どもに顔を覚えてもらい道であつてもあいさつをしてくれるようになった。
- ・子どもたちと関わるのがとても楽しいのでやりがいがある。子どもたちがかわいくてかわいくてしょうがない。
- ・子どもたちに何度言つても聞いてくれない・わかつてくれないときがある。
- ・危険な事を平気でやろうとする。注意しても聞かない。
- ・外へ遊びに行くときなど今の指導員の人数ではすべてに目が行き届かないときがある。

たかぎ第一放課後子ども教室

(喬木村教育委員会)

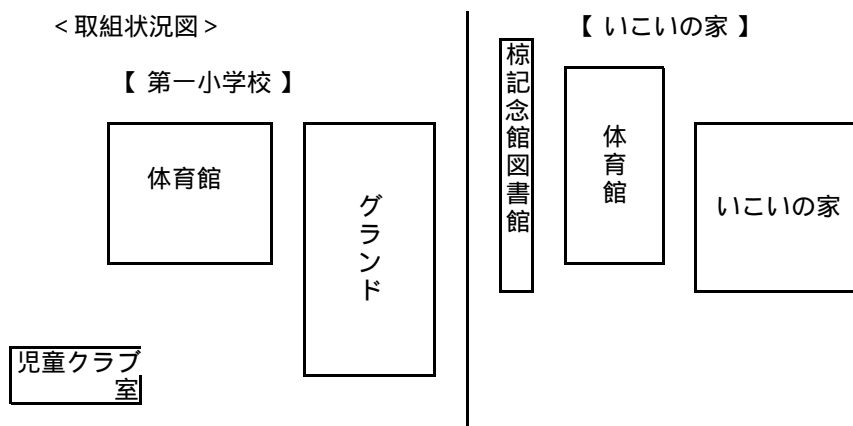
1 概要

放課後子ども達の安全・安心な活動拠点を設け、勉強やスポーツ、文化活動や地域との交流などを目的にH19年度から始めました。1年生～6年生を対象にお茶・お花・習字・英語・スポーツなどいろいろな教室があります。各教室には地域のボランティアの方々が生徒となって行っています。

	たかぎ第一（放課後子ども教室）	第一（放課後児童クラブ）
実施主体	喬木村教育委員会	喬木村教育委員会
対象児童	1年生～6年生	1年生～6年生
活動場所	小学校・体育館・いこいの家	喬木第一小学校
実施日等	平日	放課後～午後6時
	その他	午前8時30分～午後6時
帰宅方法	保護者の迎え	保護者の迎え
負担金	なし	一ヶ月 1500円
登録者数等	100名	100名

スタッフの状況	
放課後子ども教員(人)	
コーディネーター	1
安全管理員	1
学習アドバイザー	0
一般ボランティア	5
計	7
児童クラブ (人)	
指導員	3
一般ボランティア	0
計	3

< 取組状況図 >



小学校の一教室を借りて児童クラブを行っている。



放課後子ども教室と、長期休みの時に利用しているいこいの家と社会体育館。

2 活動状況等

< 活動状況 >

毎週月曜 英語で遊ぼう (AETによる英語教室)
 毎週水曜 スポーツ広場 全員でいろいろなスポーツを行う。
 (野球・サッカー・キンボール・ベタンクなど)

金曜

- 第一週 お茶の教室
 第二週 お花の教室
 第三週 昔の遊び (ビー玉・メンコなど)
 第四週 書道教室
 土・日 長期休み
 ・村内探索 ・料理教室 ・実験教室 ・釣り教室

< 活動の特長 >

- ・村所有の茶室でお茶の教室を実施。
- ・AETによる英語教室
- ・社会福祉協議会ボランティアによる実験教室の実施。

< 実施小学校区の放課後児童クラブ (第一児童クラブ) との関わり >

- ・子ども教室終了後に児童クラブへ参加 (学校で実施の時)
- ・運営委員に指導員も入っているので連携はとれている。



第三金曜日の昔の遊び教室で、折り紙を教わってもらっている様子。

3 工夫及び成果

・児童クラブの児童の参加が多い時は指導員にも協力してもらっている。

4 安全管理員等ボランティアの人材確保の状況

・老人クラブ・民生委員会・区会等へ行き事業の説明、協力をお願いする。

5 課題及び反省点

・放課後子ども教室については、館報などで広く知らせたが、まだ知らない人も多く協力してくれる人が限定されてしまった。

6 今後の展望

・放課後子ども教室について理解してくれる地域の人が増えてきたので、より多くの人達が関わって協力してくれることを期待している。

7 参加者の声

<参加児童>

楽しかった。
かわらんべで魚や、ザリガニを捕まえたのが楽しかった。
いろんな体験ができたので、また来年もやって下さい。
自分のやりたい事や自由な時間がなかった。

<保護者>

短い間でしたが、様々な経験をさせて頂き大変ありがたかった。
学校が終わってから会場へ移動するのに時間を要するので、教室の時間が少なくなってしまってそこが残念だった。
家に帰ってから一人になってしまうことがあり、充実した時間が持てて良かった。

<スタッフ>

スポーツ教室では、低学年と高学年に分けてやれたのが良かった。
遊び的なものが、学習的なものにするのか、ねらいをどこへもっていったらいいのか難しかった。
子ども達が喜んでくれたので良かった。



福祉センターの調理室借りて、土・日の料理教室で、お菓子作り。



低学年は筆ペン、高学年は毛筆での書道教室。



小学校の体育館や、グラウンドを借りてのスポーツ広場。



土・日の教室で電車に乗ってかわらんべへ。魚やザリガニを捕まえる。